

## ワークショップC

### 「患者さんは医療安全のパートナー ―患者さんにできる安全対策」

#### ◇ 患者さん、市民の参加を歓迎

コーディネーター 山内桂子(医療の質・安全学会パートナーシッププログラム)  
アドバイザー 共同行動企画委員会・支援チーム

#### 1. 趣旨説明

#### 2. 話題提供

次の4項目について、有害事象を減らし安全を高めるために、患者さんができること、患者さんの協力があればもっと効果が期待できること、を考えます。

- ①周術期肺塞栓症防止 保田知生(近畿大学医学部)
- ②転倒・転落防止 黒木洋美(飯塚病院)
- ③機器の安全使用 本間崇(日本臨床工学技士会)
- ④お薬手帳の活用 飯島久子(静岡県立静岡がんセンター)  
高橋知子(医療の質・安全学会パートナーシッププログラム)

#### 3 指定発言

患者や家族の立場の方、医療機関のリスクマネージャーなどの立場から話題提供に対しての意見や感想を述べていただきます。

【発言予定者】 江原幸一、清水肇子、豊田郁子、篠原裕子

#### 4. グループ討議

- 1. 話題提供で提案された患者参加の取り組みについて、それぞれの医療機関で実現が可能か、実現を促進するためにどのような方策があるかを話し合います。
- 2. 「私にもできることがありますか？」との問いかけを勧めるキャンペーンについて意見交換します。

#### 5. 討議のまとめ